

埼玉・オハイオスカラシップ 奨学生、親善大使レポート 10月 大学での生活

こんにちは。10月のフィンドレーでは日本の冬の始まりと同じぐらいの気温です。月末には最低気温が0℃を下回る日もありました。最近では運動不足解消のため大学内のジムでランニングマシンを使ってジョギングをしています。家から徒歩3分ほどの場所にあり、学生であれば無料で使用することができます。これで雪が多い冬も運動不足の心配はないと思います。

・大学での講義

フィンドレー大学のIELP（英語集中）コースでは英文法、コミュニケーション、リスニングの授業を受講しています。このIELP段階のレベルがあり、自分は一番上のレベルの授業を受けています。クラスは自分以外、大学院の授業を受けることを目的として留学している人で向上心の高いクラスメイトが多いです。日本のいわゆる「授業」というより、どの授業でもプレゼンテーションがあつたり少し変則的な課題が出たりします。前者では自分の国の文化や直面している課題などに関連した内容を求められる場合が多く、自分の国を紹介できると同時にクラスメイトの国について知ることもできます。また、クラスメイトは教育やビジネスを専攻している人が多数で機械工学以外のテーマを聞ける貴重な時間です。

後者は英文法の授業での課題として、グループでPSA（Public Service Announcement）、つまり公共サービスに関する宣伝の動画を作成しました。私のグループは禁煙をテーマとしました。私のグループはインド人と中国人、ネパール人と私の4人でした。内容について話し合ったり動画を撮影したりしていると、思いもよらないところで文化の違いや考え方の違いが出てきました。特に意外だったのはある国では人の家のキッチンに行くことはあり得ない事らしく、自分の家のキッチンで撮影しようとしたところ非常に驚かれたことです。国ごとの文化の違いを意識することの大切さを意識することの大切さを再確認することができました。

・インターナショナルディスカッションと客員教授のフウン先生

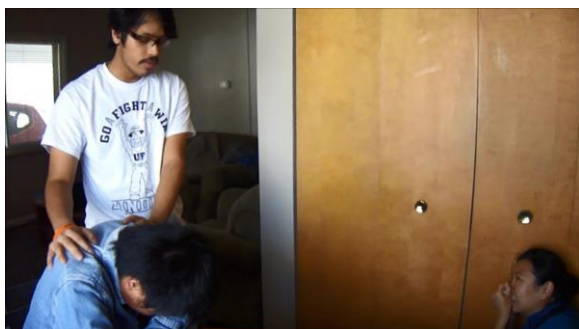
以前の奨学生の方々も参加していたインターナショナルディスカッションに参加しました。TEDを視聴しその内容に関するものです。

ちょうど私が初めて参加した際、ベトナム国立大学から客員教授としてフィンドレーにいらっしゃったフウン先生とディスカッションをさせていただきました。会話のテーマが主に性差別に関する内容で、先生の専門分野でした。的確な意見を発言される先生を前に、私はほとんど話すことができませんでした。英語力の問題もさることながら、今まで自分の専門と関係が薄いと感じたものに無関心だったため、いざこ

のようなディスカッションに参加すると発言することが難しいことがわかりました。この留学は<機械工学系>として参加している身ではありますが、アメリカでより多くの経験をするためには自分の関心の幅を広げなければいけないと感じました。

このディスカッションの後も、フアン先生によるベトナムの民族衣装、アオザイの変遷についてのプレゼンテーションを聞かせていただいたり、レセプションでお話しさせていただいたり、10月末にフィンドレーを発たれるまでとても興味深いお話を聞かせていただきました。

この大学でアメリカ人はもちろんのことさまざまな国の方と知り合うことができ、私にとってとてもいい経験ができています。自分の視野を広げ、より多くのことを吸収するとともに日本、埼玉についてより多くの人に知ってもらえるように積極的に活動したいです。



PSA のワンシーン



インターナショナルディスカッション